



おーい！くじらぐも

Vol.33 2024年（令和6年）3月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

新年度に向けて新たな福祉サービスなどのご相談も受け付けています。お気軽にご連絡ください。



強度行動障害のあるご利用者を
受け入れる事業所との調整を行い、
短期入所の利用がスタートしました。
(写真は健翔会以外の施設の写真です)



もっと稼ぎたい！というご利用者を
就労継続支援A型事業所の利用に
繋げました。その方の夢は・・・
「バイクの免許取得！」です。
(写真は健翔会以外の施設の写真です)



強度行動障害のある児童の受け入れ可能な
事業所を探し調整を行い、放課後等
デイサービスの利用が始まりました。
(写真は健翔会以外の施設の写真です)

『慣れの怖さ ～成長と慣れの違いって？～』

福祉の世界ではよく「環境に慣れる」というキーワードが出てきます。慣れることとは、よい意味でも悪い意味でも考えられますが、時に自分が成長していると思っていたことが「慣れ」だった場合もあるんです。個人差はありますが、何事にも長く続けることで出来ることもあります。それは「成長」でしょうか。「慣れ」でしょうか。

「成長」⇒自分自身でしっかり考え行動すること。

「慣れ」⇒何も考えず、今までの行動パターンで行うこと。

私はこう考えます。簡単にちゃんと考えているかいないかの違いです。例えば、何も考えずに毎日を過ごし、作業スピードが上がってしまえば「もうこの仕事は大丈夫」「いつもと同じだし」「もっと大きな仕事がしたい」そんな慢心がふと頭をよぎります。慣れは作業のスピードを上げ、一見成長しているように見えますが、必ず頭打ちがきます。

私が考える「成長」するために意識することとは・・・。

①まずは数をこなす

自分の知らない分野や業務、または経験が浅いうちは、どうしても数をこなす必要があります。質を上げようと思っても難しいです。

②全体図を客観的に見る

今の自分の仕事の必要性を考えます。なぜやるのか、やらなければならないのか、次は誰がやるのがいいのかなど、全体のフローとして考えるとより重要な箇所が見えてきます。

③自分がこうなりたいと思う人の真似をする

同じ職場や自分の近くに、憧れる人はいませんか？「こうなりたい理想像」を、なるべく近い存在で見つけて真似をすることです。しかし、その時には、小手先だけではなく本質から真似をすることが大切です。

野球選手のイチローさんが言っていました。現役時代から比べると、引退した今の方が打球の飛距離が伸びていると。成長に年齢は関係なく、努力の積み重ねと話していました。私自身もまだまだ半人前ですが、まだ成長できると信じています。

<3月のトピックス>

私事ですが、近隣に住む義母に大変お世話になっています。夕食のおかずも作って持たせてくれます。先日、三男が義母に対して、「今日はおかず何を作ってくれるの？」と当たり前のように聞き、とても違和感を覚えました。三男からすると、義母が夕食のおかずを作ってくれることに慣れてしまっていると感じたからです。帰宅後、三男には「おばあちゃんが、おかずを作ってくれるのは当たり前じゃない。その時々感謝の気持ちを持ちを伝えなさい。」と話しました。前文に書いた通り、これも「慣れ」の怖さ。私たちの生活には、必ずこの「慣れ」が潜んでいます。